

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

事業課題名	学生・院生および引率教員の海外派遣／タマサート大学
代表者名	久野秀二（経済学研究科）
事業概要 (600 字程度)	<p>2013 年度に締結した経済学研究科とタマサート大学国際学部、タマサート大学経済学部との交流協定および 2016 年度に締結した経済学研究科とチェンマイ大学経済学部との交流協定に基づき、タイへの短期学生派遣プログラムを行った。チェンマイでは、チェンマイ大学の教員による講義、大学院生合同ワークショップ、政府機関（商務省国際貿易振興局）、食品製造企業、山岳民族博物館、タイ王室農民振興プロジェクト開発センターへの訪問を行った。バンコクでは、在バンコク国連機関（国連工業開発機関、国連アジア太平洋経済社会委員会）を訪問し、近郊カオヤイにあるオーガニック農場へのフィールド・トリップを実施したほか、チュラロンコーン大学経済学部とタマサート大学国際学部及び地域研究研究所の協力を得て、チュラロンコーン大学経済学部において 3 大学合同の大学院生ワークショップを開催した。</p> <p>経済学研究科の東アジアコースに所属する大学院生 9 名、一般コースの大学院生 2 名、経済学部の学生 1 名の計 12 名が参加した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>2018 年 2 月 11 日～2 月 20 日までの 10 日間、経済学研究科の大学院生 11 名、学部生 1 名が本プログラムに参加した。</p> <p>本プログラムは経済学研究科の国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース」の配当科目である「Overseas Field Research」および「Field Research in East Asia」を兼ねて実施された。プレ SEND として実施された 2012 年度の派遣プログラム以来、今回で 6 回目となる。これまでは、タマサート大学国際学部の全面的な協力を得ながら、①タイの文化・政治・経済に関する、元政府関係者を含む講師陣による講義と、文化施設・政府機関・現地企業など各講義に関連したフィールド・トリップとを組み合わせた短期研修、②タマサート大学国際学部・経済学部、チュラロンコーン大学経済学部（2014 年度から）を含む 3 大学合同の大学院生ワークショップ、③バンコク以外の地域（2013・2016 年度はチェンマイ、2014 年度はプーケット）へのフィールド・トリップ、を主な内容としてきた。2017 年度は、新たにタマサート大学地域研究研究所（TIARA）及び同アジア太平洋修士プログラム（MAPS）の協力を得て、国連機関訪問時には MAPS 学生も合流するなど、①の内容を充実させることができた。TIARA とは学術交流協定を、TIARA・MAPS に経済学部とともに参画する政治学部とは学生交流協定を、それぞれ締結する予定であり、交流の一環として、同スタッフ 4 名とともに、カオヤイを訪問し、農場へのフィールド・トリップを実施した。また、チェンマイ訪問時にはチェンマイ大学の協力によって、同大学の教員による講義、学生との研究交流の時間を設けることができたほか、政府機関や食品製造企業、農場訪問を実施した。</p>